

私たちは被ばく線量の少ない 発電所を目指し日々努力しています

東通原子力発電所の各課紹介は今回で7回目となりました。発電所の放射線測定・管理等を行い、被ばく線量低減に取り組んでいる「放射線管理課」を紹介いたします。

私たち放射線管理課は課長以下25名(うち青森県出身者10名)、放射線管理グループと化学グループの2つのグループで構成されています。

放射線管理グループは、発電所内の放射線管理や発電所内で働く人の被ばく線量管理などを行っています。また、発電所周辺の環境調査・分析を実施し、青森県と東通村など近隣市町村へ報告しており、その結果は青森県によって3ヶ月に1回公表されています。

化学グループは、発電所から発生する放射性廃棄物の管理を厳重に行っています。また、原子炉の水をはじめとして、発電所で使用する水全般の水質を監視・管理しています。

私たちはこれからも、正確かつ適切な放射線管理を心がけ、発電所を安全に安定して運転することで、皆さまに安心していただける発電所であり続けるよう努力してまいります。

発電所各課の紹介(第7回)

放射線管理課長 佐藤 元史



目に見えない放射線に対して正確かつ適切な管理を心がけ、世界に誇れる東通原子力発電所を目指してまいります。



東通原子力発電所の作業員が安心して働けるよう、被ばく線量の少ない発電所を目指して頑張っています。

放射線管理グループ
弘前市出身 鈴木 徳弘



安全第一を最優先に考え、地域の皆さまに安心をお届けできるよう、発電所の放射線管理に取り組んでいます。



測定器を用いて放射線を測定

放射線管理グループ



放射性廃棄物の管理を徹底し、的確な調査・監視を心がけ、環境にやさしい発電所を継続し、住民の皆さまに安心をお届けできるよう、日々業務に取り組んでいます。

化学グループ
十和田市出身 豊川 佳祐



入社2年目の二十歳です。一日でも早く先輩たちに近づくよう、日々、業務に励んでいます。今後も仕事に趣味に頑張ります。



水質の監視・管理を実施

化学グループ

グリーンな原子力発電所として表彰されました!

東通原子力発電所は、ISOE国際ALARAシンポジウムにおける最高の「ISOE賞」を受賞しました。

建設当時から「グリーン・プラント」を合言葉に、東通原子力発電所では、女川原子力発電所の対策状況を踏まえ、設計・建設・試運転・運転の各段階で様々な被ばく線量低減対策を実施してきました。

この賞は、第1回定期検査時の作業員の被ばく線量が世界トップレベルの低い値を達成したことから、当発電所の被ばく線量低減対策の成果が評価されたものです。

これからも東通原子力発電所は、これらの取組みを継続してまいります。



ISOE国際ALARAシンポジウムとは

ISOEとは「職業被ばく情報システム」の略称で経済協力開発機構原子力機関加盟国の原子力発電所に係る被ばくデータを交換するためのシステムで、被ばく低減に資することを目的としています。

ALARAとは『合理的に達成可能な限り低く保つ』という意味です。

このシンポジウムでは、世界中の電気事業者およびメーカーが集まり、線量低減に関する最新技術を報告・議論します。

いざという時に備えて救命・応急手当講習会を実施しました

東通原子力発電所では、1月28日(水)、東通消防署において、救命・応急手当講習会を実施しました。この講習会は、応急手当の重要性を認識するとともに、その手順をしっかり身につけることを目的とし、これまでも実施しているもので、今回は当社および協力会社の社員32名が受講しました。



心肺蘇生は迅速・適切な処置が大切!

講習会は、東通消防署員のご協力のもと、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法などについて説明を受けた後、参加者全員が実践し手順を確認する形で行われました。

当発電所では、これからも継続して講習会を実施し、いざという時に迅速・適切な対応ができるよう取り組んでまいります。



AEDについても実践